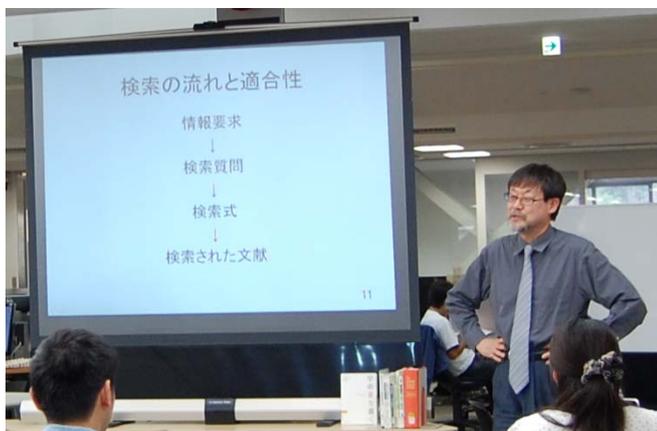


大学院生基礎

「自分を守る情報リテラシー」 情報の山で迷わないために

図書館情報メディア系 逸村 裕 先生



ライティング支援セミナーの第一回「大学院生基礎 - 自分を守る情報リテラシー」では、「情報の山で迷わないために」をテーマに図書館情報メディア系の逸村裕先生によるセミナーが開催されました。

大学院生として研究する上で論文とのおつきあいは欠かせません。しかし、良い論文とはどんな論文なのか？良い論文を書くためには何に気をつければいいのか？研究不正を防ぐためにはどうすればいいのか？こうした疑問を持つ人は少なくないでしょう。今回のセミナーはこれらの問いへのヒントとして、学術論文を構成する「先行研究」と「引用・参考文献」に焦点を当てながら進められました。

まず、良い論文とはどのようなものなのでしょうか。逸村先生によると、リサーチ・クエスチョンが明快であること、想定読者が考えられていること、そして書式が守られていることが良い論文の条件だそうです。書式なんてたいした問題じゃない、内容こそが重要！と思うかもしれませんが、逸村先生によると、書式が守られていないけれど内容は良い、なんてことはめったにない！とのこと。また、書式を含めた論文に関する「お作法」は分野によって異なるため、その分野のマナーに沿って書くことが大切だそうです。

さらに、今回のセミナーの副題にも挙がっている「情報の山で迷わない」ための方法について。これは、「適切な文献を探し・評価し・活用すること」だそうです。アイザック・ニュートンの「巨人の肩に乗る」という表現は良く知られていますが、この言葉の通り、われわれの研究は過去の研究成果に基づくものです。自分が読んだ論文をきちんと「引用」するというのが、情報の山で迷わないための何よりのヒント、ということでした。

このように論文において必要不可欠な「引用」ですが、とりわけ先行研究の引用は自分の研究の違いを整理し、自分の研究の位置づけを明らかにするための必須条件ともいえます。しかし同時に、引用というのは自分以外の人の考えを自分の論文で利用することになるため、アイデアや文章の盗用にならないよう気をつける必要があります。具体的には①必要な箇所を直接引用する、②短く要約する、③自分の言葉で言い換えるなどして自分の意見と明確に区別するとともに、必ず出典を明記することが必要です。また論文中で引用した文献は、著者名、タイトル、出版年などの詳しい書誌事項とともに文献リストとして論文の最後に掲載しましょう。引用が適切に行われておらず、他の文献から引用した箇所と自分の意見が区別されていない場合、剽窃（ひょうせつ、Plagiarism）として扱われてしまう危険性があります。うっかりミスからそうした疑いを招くことのないように十分気をつける必要があります。

良い論文とはどんな論文か？研究不正を防ぐにはどうすればいいのか？大学院生であれば誰でも抱く疑問への答えが見つかるセミナーでした。

レポート: KOMINAMI
(図情メディア研究科)

